

# サポーターズタイムズ

## Supporters Times



秋葉けんやサポーターズ事務所  
自由民主党宮城県衆議院比例区第一支部  
〒981-3121 仙台市泉区上谷刈4-17-16  
Tel 022(375)4477  
Fax 022(375)0057

### 衆議院議員 秋葉 けんや 政策・活動レポート

購読料 年額6,000円  
編集 集 (株)アクトジャパン



小淵優子少子化担当特命担当大臣に具申

## 少子化問題に全力投球!

少子化問題や子育て支援については、2003年に少子化社会対策基本法を制定して以来、次世代育成支援対策推進法に基づく行動計画の策定をすべての自治体に義務づけたり、『子ども・子育て応援プラン』の策定(2004)や『新しい少子化対策について』の立案(2006)、『こどもと家族を応援する日本～重点戦略』(2007)、『新待機児童ゼロ作戦』(2008)等に基づく施策の推進が図られ、関連予算も拡充してきました。具体的には、育児休業給付金の引き上げや保育サービスの拡充、病児保育や放課後児童クラブの充実、妊婦検診の全額無料化、子育て応援特別手

当の支給、出産一時金の引き上げ、特定不妊治療への公費助成の拡充など施策の充実、拡大が図られてきたのは間違いありません。問題は、にもかかわらず実態において、なかなか少子化に歯止めをかけることができないことです。

46年後の2055年には、高齢化率(65歳以上の人口割合)が40.5%、未婚率が23.6%、出生率は1.26になるだろうといわれています。今現在、9割以上の国民が結婚を希望し、2人以上の子どもがほしいと望んでいますが、現実の出生率は1.75に留まっています。理想と現実と大きなギャップが生じている要因は、若年者の経済的な基盤が脆弱なことや雇用への不安、子育てと仕事の両立が困難であったり、育児への不安もあると思います。

したがって今後目指すべきベクトルは、「就労」と「結婚・出産」の二者択一構造を変え、女性をはじめとする働く意欲を持つすべての人の就労を実現し、国民が希望する結婚・出産・子育てを可能にしていくことに尽きます。そのためには、働き方の見直しによる「仕事と生活の調和」の実現、保育など子育て支援サービス・給付の拡充を一層図っていかねばなりません。政府・与党は、一連の景気対策で、子育て支援を行うNPOや放課後児童クラブ等への財政支援である「地域子育て創生事業」(総額500億円)や、保育所や認定こども園等の整備のための「保育サービス拡充事業」(総額350億円)等を盛り込んだ『安心こども基金』(総額2500億円/うち宮城県の配分額は47億円)を創設し、少子化問題や子育て支援に積極的に取り組んでおります。私自身、3人の男の子の父親であり、子育ての真っ最中です。当事者としての実感をもって、全力投球して参ります。

衆議院議員 秋葉 賢也



今年9月5日が第二子の出産予定日だと伺いました

# 愛する街だから必死になれる、松下政経塾出身、46歳



# 「平成21年度補正予算（経済危機対策）案」

## ～ 衆院本会議で可決 ～

戦後最大と言われる世界的規模の不況が続く中、衆院では、5月13日、「平成21年度補正予算案」を本会議で可決しました（衆院の優越に関する憲法の規定により、可決から30日後の6月12日に自然成立）。今月号では、総額15.4兆円に上る『経済危機対策』のポイントについてご説明致します。

### 雇用対策

- ◎ 離職により住居をなくし資金を持たない方々へ  
⇒ 「つなぎ資金（10万円以内）」、就職活動中（最大6ヶ月間：当面1年間の緊急措置）の「住居手当」、「生活資金融資（最大1年間）」の創設。
- ◎ 従業員を解雇せず、休業等により雇用の維持に努める企業へ  
⇒ 「雇用調整助成金」の拡充
  - ①助成率の引上げ（大企業：2/3補助⇒3/4補助へ、中小企業：8割補助⇒9割補助へ）
  - ②残業の削減やワークシェアリングにより解雇等を行わない企業への支援  
⇒有期契約労働者1人当たり、大企業（年間20万円）、中小企業（年間30万円）



### 金融対策【42兆円の追加金融対策】

- ◎ 中小企業向け資金繰り対策の拡充  
⇒信用保証協会が行う緊急保証（中小企業が金融機関から、一般の保証とは別に、無担保保証で最大8000万円、普通保証で最大2億円まで信用保証協会の100%保証を受けられる制度）の保証枠の拡大（20兆円⇒30兆円に拡大）
- ◎ 日本政策金融公庫が行うセーフティネット貸付（業種を問わず、中小企業は最大7億2000万円まで、小規模企業は最大4800万円まで利用可能）の融資枠を9兆円から12兆円に拡大。  
商工中金が行う融資枠を9000億円から、3兆3000億円へ拡大！
- ◎ 今年から導入した過去最大の住宅ローン減税（長期優良住宅で最大600万円、一般住宅で最大500万円の減税）に加え、住宅ローンの借り入れを容易にするために、住宅金融支援機構を活用して頭金なしで住宅ローンを借りられる10割融資を実施。民間金融が行う住宅ローンに対しても、住宅金融支援機構が100%保険でカバーする制度を導入
- ◎ 日本企業が行う海外事業を支援するため、国際協力銀行による3兆円相当の融資や保証を実施。



### 医療介護対策

- ◎ 「地域医療再生交付金（仮称：3100億円）」の創設  
⇒地域内における基幹医療機関の機能を強化し、産科・小児科等の個別診療科ごとの地域連携パスの構築、医師派遣システムの強化等の支援を実施
- ◎ 流行から半年以内に全国民分のワクチンを生産できる世界最高レベルの新型インフルエンザワクチン生産体制の構築（1300億円）
- ◎ 介護分野の人手不足を解消するため、介護職員の処遇改善やスキルアップの取組みを行う事業者に対して、2009年10月分より、介護職員1人あたり平均月額1万5千円の給与引き上げに相当する金額を助成（4000億円）



### 子育て・教育支援

- ◎ 子育て応援特別手当の支給対象を拡大（小学校就学前の3年間）  
対 象：平成20年度は第二子以降である子供 ⇒ 平成21年度は第一子から支給！  
支給額：一人あたり、36,000円
- ◎ 待機児童の解消  
「生活対策」で都道府県に設置された「安心こども基金」の拡充（1000億円 ⇒ 2500億円）→平成22年度までに15万人の受け入れ体制の整備！
- ◎ 子宮頸がん検査と乳がん検査の受診促進  
⇒一定の年齢に該当する女性に【無料クーポン】を配布！
- ◎ 家計の急変で修学が困難な高校生・大学生に資金的支援を実施  
⇒授業料減免や奨学金貸与者の人員増加・返還猶予の拡大





# けんやの国会活動レポート!

## 『夏季ボーナス・国会議員2割カット、国家公務員1割カットを主導!』

5月21日、午前9時30分から衆院総務委員会が開催され、「国家公務員一般職の給与に関する法律の改正案」に関する審議を行いました。総務委員会理事を務める秋葉代議士は、この日も、トップバッターで質疑に立ちました。

秋葉代議士は、5月1日の人事院勧告を受け、国家公務員一般職の夏季ボーナス(期末・勤勉手当)の1割凍結(暫定措置)を定めた改正案等について、人事院の谷公土総裁、総務省の村木人事恩給局長、松永自治行政局公務員部長に対して質疑・提言を行いました。ポイントは次の通り。

- ①例年8月に行われる人事院勧告が、本年は異例とも言える5月に出された社会的背景。
- ②民間の給与水準・雇用状況の悪化に鑑み、十分な審議を経た上で改正案成立に必要な早期の人事院勧告の必要性。
- ③地方の人事委員会勧告の現状。
- ④地方公共団体における地方公務員の給与カットの現状。

質疑の終わりに、秋葉代議士は、今回の改正案の早期成立の社会的妥当性について強調すると共に、現在、与党のプロジェクトチームで合意している「国会議員の夏季ボーナス2割カット」の必要性について、与野党の委員に広く提言致しました。



## 秋葉賢也政経フォーラム 2009 IN Tokyo

5月13日、『秋葉賢也 政経フォーラム』が都内のホテルで開催されました。当日は午後から開催される本会議の直前にも拘らず、多くの国会議員の先生方にご来臨賜りました。また地元仙台からも、多くの皆様にご出席頂きました。



セミナーでご挨拶する  
安倍晋三元内閣総理大臣

まず、安倍晋三元内閣総理大臣をはじめ、政策フォーラム「新しい風」会長の武部勤先生、町村信孝前内閣官房長官、細田博之党幹事長、塩崎恭久元内閣官房長官、小池百合子元防衛大臣、中野正志前経済産業副大臣よりご挨拶を賜った後、元内閣府特命担当大臣(少子化・男女共同参画)として重責を果たされ、また国際政治学者として著名な猪口邦子衆議院議員より、リーマンショック以来続く世界同時不況とわが国の対内・対外政策をテーマに、学問及び実務に基づく多角的見地から、わかりやすくご講演頂きました。



武部勤『新しい風』会長



塩崎恭久元内閣官房長官

お陰様で、盛会のうちにセミナーの幕を閉じることができました。ご出席頂いた皆様に、この場を借りて、御礼申し上げます。

## 秋葉代議士のある日のスケジュール IN APRIL

『国会議員さんはどのように一日を過ごしているのですか?』国会議事堂見学を訪れる学生の皆さんからの質問で最も多く聞かれるのがこの質問です!そこで、秋葉代議士のある一日のスケジュールをご紹介します!

6:50  
起床

7:20

自宅から徒歩と地下鉄で、永田町へ

8:00~9:00

党本部で開催される部会に出席

◇部会長代理を務める外交部会に、松浪健四郎部会長と共に出席



秋葉代議士は、現在、総務副部会長を兼任

9:00~12:00

衆議院決算行政監視委員会第三分科会に出席



第三分科会で司会役を務める秋葉副主査

12:00~13:00

◇党本部等で開催される会合・部会に出席し、昼食

13:00~17:00

決算行政監視委員会第一分科会に出席



警察官増員や監察医制度拡充の必要性を、警察庁幹部を前に強く提言する秋葉代議士

17:10~18:00

◇国会事務所にて翌日のスケジュールの打ち合わせや来客の対応

18:30~20:00

◇都内ホテルで開催された国会議員のパーティに出席

20:30~22:00

◇若手国会議員同士の懇親会に出席

23:00

無事、帰宅

## Activity Info



5 / 9 (Sat.)  
第20回羽根川杯少年野球選抜大会

開会式で挨拶をさせていただきます！宮城県下32チームのトーナメントで当日は1、2回戦が行われ、3回戦から決勝戦は秋に行われます。野球少年達、元気ががんばって下さい！



5 / 16 (Sat.)  
宮城県土地家屋調査士の総会

宮城県土地家屋調査士の会の定時総会がメルパルクにて開催されました。懇親会に駆けつけ、顧問として会員の皆様方にご挨拶をさせていただきます！



5 / 18 (Mon.)  
宮城県ろうあ協会通常総会

宮城県ろうあ協会の総会でご挨拶。総務委員会理事として、NHKの字幕化率が低い現状を指摘し、特に生番組の字幕化率を改善するよう要請した旨を報告させていただきました！



## 「ゴールドスランバー」の撮影が進行中です！

ケヤキの青葉がそよそよと風に揺れる6月。杜の都仙台が美しく輝く季節です。その仙台で現在、『ゴールドスランバー』という映画の撮影が行なわれています。これは現在公開中の『重力ピエロ』に続き伊坂幸太郎氏原作のベストセラー小説を映画化するもので、主演は堺雅人、竹内結子、監督は『アヒルと鴨のコインロッカー』でメガホンを取った中村義洋監督。撮影は主に青葉通や定禅寺通などの仙台市中心部で、市民エキストラの参加のもと順調に行なわれています。

『ゴールドスランバー』は10月完成予定で2010年の公開。フィルムを通せば客観的な視点で、見慣れた街の魅力を再確認できるかもしれません。

## 秋葉 賢也 (あきば けんや) プロフィール

- 昭和37年7月3日宮城県生まれ、46才。
- 角田高校を経て、中央大学法学部卒業、東北大学大学院法学研究科博士課程前期修了。
- (助)松下政経塾卒塾(第9期生 宮城県初)を経て、宮城県議会議員(三期)を務める。
- 総務大臣政務官や党副幹事長などを経て、現在、衆院では総務委員会理事、決算行政監視委員会理事、海賊対処・テロ防止特別委員会委員を務めるとともに党内では外交部会長代理、総務副部長を兼任。
- 著書：「地方議会における議員立法」(文芸社)、「東北の夢創造」(ぎょうせい)。
- 趣味：野球、空手などスポーツ、音楽、映画。



## 秋葉けんやと語る会 ～ 国政報告会 ～

### 泉 区

日 時 6月26日(金) 19時～  
場 所 松森市民センター  
(泉区松森字城前9-2)



### 宮城野区

日 時 6月29日(月) 19時～  
場 所 岡田会館  
(宮城野区蒲生字鍋沼41)

### 若林区

日 時 6月27日(土) 19時～  
場 所 荒浜コミュニティセンター  
(若林区荒浜1-3-3)



## 先人に学ぶ③

受けつぎて国の司の身となれば  
忘るまじきは民の父母

これは上杉鷹山が第9代米沢藩主となった時に決意を込めて詠んだ歌です。藩主として為すべきことは、父母が我が子を慈しみ養うがごとく、人民のために尽くすことであるとの覚悟を肝に銘じた鷹山。この時なんと弱冠17歳でしたが、財政破綻状態の米沢藩(当時の領民は約10万人)を受継ぐという責任の重大さを充分に自覚していたに違いありません。

そんなプレッシャーに苛まれる若き藩主に力を与えた"火種"のエピソード。改革を行なうため、江戸から雪深い米沢へと向う鷹山は、板谷宿(福島と山形の県境付近)に着いた時、米沢藩の衰退を反映し廃墟と化したその有様に呆然とします。まるで手にしていた灰皿の灰のようだと思いがながら、その灰を何の気なしにかき回してみると、中には未だ消えていない小さな炭灰がありました。鷹山の瞳は一瞬にして輝き、藩士を集め、静かに語ります。「わたしがこの火種になる。おまえたちはこの火を受けて、明日米沢城に入ったらそれぞれの持ち場で火種になってほしい。われわれの火種で新しい火をおこそう。この米沢の地に。」

鷹山の改革にかかる情熱はまさに赤々と燃える火種となり、藩士そして領民へと受けつがれ、再生不可能と思われた米沢藩をみごとに蘇らせたのでした。その改革の根底には、「民の父母」たる為政者としての領民への深い愛があったのです。(7月号へつづく)